

施政方針の概要

平成27年2月25日開会の平成27年第1回市議会定例会で岩切秀雄市長が述べた市政に関する考え方や方針の概要を紹介いたします。なお全文は市ホームページで紹介しています。



薩摩川内市長 岩切 秀雄

本市をめぐる最近の動き

昨年末に宝島社から発行された月刊誌「田舎暮らしの本」で「第3回日本住みたい田舎ベストランキング」が発表されました。移住者への支援制度、自然の豊かさ、暮らしやすさなど95項目のアンケートによるランキングで、定住促進に積極的な全国295市町村の中で、本市が総合3位となりました。今後も住み心地一番のまちを目標に取り組みでまいります。

同じく昨年末、川内商工高校インテリア科2年生の中山静華さんが、環境省募集の「平成26年度近隣騒音防止ポスター・カレンダーデザイン」で、全国617点の応募作品の中から、最優秀賞を受賞されました。素晴らしい成績であり、誠に喜ばしいことです。

1月9日には、公共関係による産業廃棄物管理型最終処分場「エコパークかごしま」の産業廃棄物の受け入れが開始されました。本市に管理型最終処分場があることにより、企業立地の促進が図られ、さらに活性化されることを期待

しております。

また、人口減少、少子・高齢化という課題に対する施策横断的な連携を推進するため、薩摩川内市総合戦略推進本部を設置し、1月26日に第1回薩摩川内市総合戦略推進本部会議を開催しました。今後、まち・ひと・しごと創生法に基づき総合戦略の策定を急ぎ地方創生に向けた好循環を生み出せるよう、本市が直面する構造的な重要課題に積極果敢に取り組みでまいります。

1月28日には、薩摩川内港外貿コンテナ年間取扱量2万TEU達成記念セレモニーを開催しました。東アジアに近い地理的優位性を生かし、これまで以上にポートセールスに取り組み、薩摩川内港のさらなる発展につなげてまいります。

3月7日には、南九州西回り自動車道「川内隈之城道路」の薩摩川内高江インターチェンジから薩摩川内都インターチェンジまでが開通します。これにより、薩摩川内水引インターチェンジから鹿児島インターチェンジまでつながり、市街地における国道3号の渋滞緩和や交流人口の増加を期

待しているところであります。

3月16日には、甕島およびその周辺海域が国定公園に指定され、同月28日には甕島国定公園指定記念式典が開催される予定であり、今後の甕島の振興や活性化に大きな弾みになると考えております。

また、本年10月31日から11月15日にかけて、県内各地で「第30回国民文化祭・かごしま2015」が開催されます。本市は「全国はんやの祭典」「薩摩川内こころの川柳大会」「全国まごころ短歌大会」「文弥節人形浄瑠璃の祭典」および「甕島の生活と文化の祭典」の5つの事業を実施しますが、本市の特徴を生かした素晴らしい大会となるよう尽力するとともに、全国各地から来訪される皆さまに、本市をPRしてまいりたいと考えております。

このように、昨年末から明るいニュースや話題が多くありました。今年もできるだけ多くの明るい話題を提供できるよう努めてまいりたいと考えております。

本年度の施策概要

①原子力安全対策の推進
九州電力株式会社に対し、さらなる安全対策の充実強化を強く求めるとともに、原子力防災計画を充実し、万が一、原子力災害が発生した際の避難の在り方、避難経路、避難方法、避難先などについて、市民の皆さまに周知を図ってまいります。

②健康・福祉対策の推進
地域包括ケアシステムの構築を目指し、在宅医療と介護の連携や認知症高齢者への支援体制づくりを推進するとともに、薩摩川内市子ども・子育て支援事業計画に基づく保育所などの待機児童対策や放課後児童クラブへの支援を行い、さらには、生活困窮者の自立支援のための相談窓口を設置するなど、市民が健やかに生き生きと暮らせるまちづくりに取り組んでまいります。

③次世代エネルギーの推進
総合運動公園の防災機能強化事業として、災害時に必要な定置型蓄電池を導入し、総合運動公園のさらなる防災機

能強化を図ります。

また、甕島蓄電池導入共同実証事業やLED街路灯導入促進事業なども展開してまいります。

④農林漁業の六次産業化

本市の重要な産業である農林漁業の振興と農林漁業経営の改善を目的として、六次産業化支援事業や、意識啓発および人材育成のためのシンポジウム、基礎講習会などのほか、新たに実践講習会、交流フェアなどを実施してまいります。

⑤商工業の振興

産学官金連携による内発型企業振興を図るため、薩摩川内市企業連携協議会の活動を支援するとともに、企業が求める各種支援にワンストップでアドバイスなどを行う「(仮称)薩摩川内市産業支援センター」の平成28年度設立に向けた諸準備に着手いたします。

また、地域成長戦略に掲げられた4つのビジネスを中心とした積極的な企業誘致を推進してまいります。

⑥観光・シテイセルスの推進

甕島観光ラインや観光イベントを通じ、交流人口の増加を図るとともに、温泉郷活用プランや宿泊を絡めた観光地域づくりを進めてまいります。

また、本市の特産品を積極的に取り扱い、そのPRに協力いただく市外の飲食店を、ふるさと応援店として認証する制度を創設するとともに、市内観光物産施設の販売機能の充実、株式会社薩摩川内市観光物産協会と連携した「旅」食「品」を絡めた販路拡大を図ってまいります。

甕島地域の振興につつましでは、「甕はひとつ推進室」を新設し、地域の一体化の推進を図るとともに、近く策定する甕島ツーリズムビジョンに基づき、地域資源の保護と活用を始め、受入環境の向上、効果的な情報発信などに取り組みでまいります。

公共交通につきましては、市内コミュニケーションバスのデマンド化を推進するとともに、将来を見据え、鉄道、バス、船が連携した、より効率的で利便性の高い公共交通ネットワークを構築するため、マスタープランとなる地域公共交

通網形成計画を策定してまいります。

⑦社会基盤整備の推進

今回、川内駅周辺地区土地区画整理事業が完了しました。天辰第一地区土地区画整理事業および入来温泉場地区土地区画整理事業につきましては、これまで同様、事業推進を図ってまいります。

また、入来温泉場地区に建設中の入来温泉湯之山館が3月末には完成し、4月には供用開始できる見込みであります。

⑧スポーツの振興

閉校した樋脇高校跡地に、全国・九州大会などにも対応できる規模のグラウンドゴルフ場の整備を進めてまいります。

また、今年も多くの実業団や大学などが本市で合宿を予定されており、今後もさらなるスポーツ合宿などの誘致に積極的に取り組んでまいります。

予算の大綱

今後の行財政運営に関しましては、雇用や経済面における課題、社会保障関連経費の上昇、公共施設などの維持経費の増大など多くの課題を抱えている中、財源面においては、平成27年度から普通交付税の市町村合併特例措置が段階的な縮減期間に入り、厳しい財政運営が求められております。

これらに対応するためには、施策展開の方向性、歳出削減策および財源充当の重点化・シフト化を一体的に展開する必要がありますと考え、行財政運営の方向性を示した財政運営プログラムにより、その取り組みを推進してまいります。

予算案においては、これらで以上に徹底した経費の削減や制度の見直しを行い、必要な施策分野の財源確保に努めることを基本姿勢としながら、具体的には、人口減少や少子・高齢化社会への対応、地域活力を支える人材の確保・育成、コミュニケーション・集落活動の活性化、雇用の確保と経済の活性化、社会資本ストックの老朽化への対応などの課題を踏

まえて、①地域成長戦略の展開による雇用創出 ②次世代エネルギー施策の推進 ③経済対策事業の実施 ④社会保障関連経費の確保 ⑤市民の安全・安心を守る防災対策 ⑥投資的事業の重点化を図るなど、第2次薩摩川内市総合計画の6つの施策の基本方針に沿った、計画的な展開を図るべく予算を編成し、「市民の安心を高め地域の活力を生ずる行動予算」としたところであります。

これらの結果、一般会計当初予算の規模は、前年度当初予算に比べ、5・9%減の502億5000万円、簡易水道など13の特別会計の合計で292億301万円となりました。

むすび

平成27年度は第2次薩摩川内市総合計画がスタートする重要な年であります。これまでの10年間を礎にして、地域特性を生かした活力と魅力のあるまちの実現に向けてさらにまい進してまいります。

市民の皆さまのより一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

